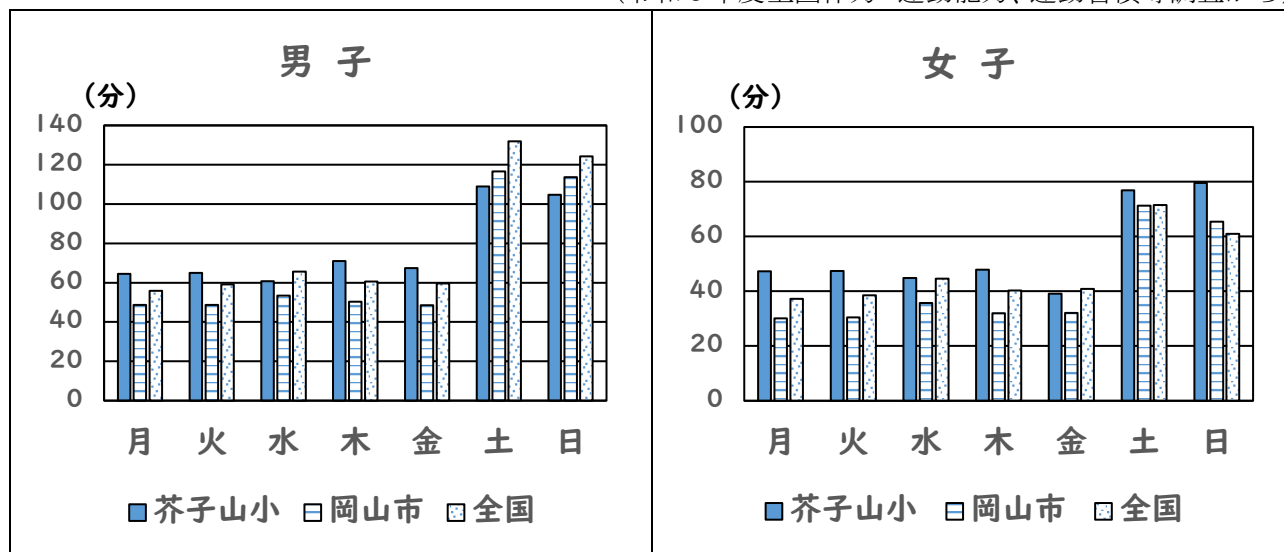


体育委員会が発信する運動習慣づくり

学校名	岡山市立芥子山小学校		校長名	高山 祐子	
児童生徒数	741人	学級数	31	教職員数	67人

< 体育の授業以外の運動やスポーツの時間（曜日別） >

（令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査から）



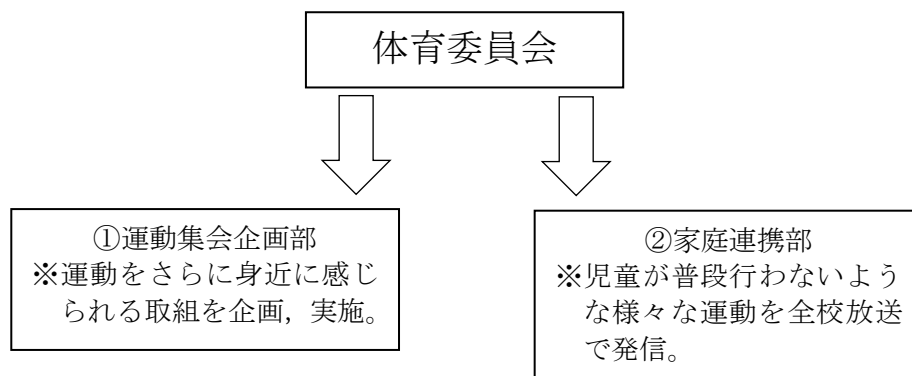
1 児童生徒の実態

令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等の調査から、体育の授業以外の運動やスポーツの時間は、平日においては曜日によって多少の差があるものの、岡山市や全国平均とほぼ同等かやや多い傾向にあった。休み時間には、多くの児童が友達や先生と一緒に外遊びを楽しむ様子が見られる。

しかし、体育の学習において、苦手意識が先行し、運動に前向きでない児童はどのクラスにも存在する。また、新体力テストの体力合計得点を見ても、岡山市や国の平均を上回っている学年は、ほぼない。運動をさらに身近に感じられる取組や多様な運動を経験する取組が必要だと感じる。

2 取組の概要

上記の実態を踏まえ、体育委員会の活動を見直し、①運動集会企画部と②家庭連携部とに分けて取組を行うことにした。運動集会企画部では、運動をさらに身近に感じられる取組を企画し、休み時間に実施した。家庭連携部では、体育委員会が考えた普段行わないような様々な運動を全校放送で発信し、その運動を家庭と連携して取り組めるようにした。



①運動集会企画部の取組

○やってみたい運動遊びアンケートを全校で実施

全校児童が運動をさらに身近に感じることができるように、今まで体育委員会が独自に決めていた運動集会を、全校児童のアンケートをもとに決めることにした。学習者用端末を利用してアンケートを実施し、アンケートの提出や集計作業の手間を省いた。

運動集会アンケート

どの運動集会がしたいかアンケートを取らせてください。

どの運動集会がしたいですか？

☐ しょうがいぶつリレー

☐ 人間オセロ

☐ 言うこといっしょ やることいっしょ



運動集会の様子

②家庭連携部の取組

○新体力テストの結果から全校に発信する運動を決定

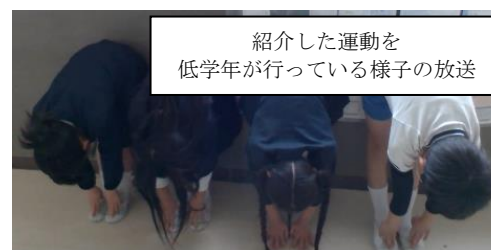
新体力テストの結果をもとに、芥子山小学校の体力面の強みや弱みを体育委員会の児童と分析し、どんな運動を全校に発信するかを決めた。児童と相談した結果、柔軟性を高められるような運動を全校に発信することにした。



体育委員会の全校放送

○決定した運動を全校放送で発信

柔軟性を高める運動を全校放送で体育委員会が紹介した。体育委員会が運動を紹介するだけでなく、「〇〇できるかな？」と低学年の児童や先生にも体育委員会が考えた運動をやってもらい、その様子を放送した。



紹介した運動を
低学年が行っている様子の放送

○体育委員会が考えた運動を芥子山小のホームページに掲載

体育委員会が考えた運動をホームページに掲載し、家庭でも運動ができるようにした。個人情報に配慮し、先生がお面をつけて運動をしている様子をホームページに掲載した。



体育委員会が考えた
運動を HP に掲載

3 成果

運動集会企画部では、アンケートで全校児童が運動遊びを選ぶ取組を行ったことにより、自分たちが選んだ運動遊びという意識となり、参加した児童が意欲的に運動遊びを楽しむ様子が見られた。

家庭連携部では、体育委員会の放送を実施したことにより、休み時間にその運動に取り組む児童の様子が見られた。また本校で取り組んでいる毎日学習カードの運動の欄に体育委員会が紹介した運動が記載される様子も見られた。普段なかなか行わない運動を紹介したことで、児童が多様な動きを行うきっかけになったと考える。



日にち	運動	お家の人	先生
1	ストレッチ		
2	ストレッチ		
3	ストレッチ		
4	ストレッチ		
5	ストレッチ		

4 課題・今後の取組に向けて

アンケートをもとに運動集会を行ったが、児童の思いを汲み上げて行う集会だけではなく、体育委員会発信のクラスで記録にチャレンジできるような取組も行っていく必要性を感じた。そうすることで、ただ「運動って楽しい。」だけではなく、「記録に挑戦する運動って楽しい。」「友達と協力して行う運動って楽しい。」といった様々な運動の楽しみ方に児童が触れることができると感じた。

また、ホームページの取組は始まったばかりなので、体育委員会と協力し、いろいろな運動を掲載したり、「やってみたい。」と児童が思えるように運動を改良したりすることで、家庭と連携して運動習慣づくりを進めていけるようにしていきたい。